

子ども用



伝道地便り

2020年 第4期 南アジア支部

- | | |
|--------------------|-----|
| 第1話 「インドのサラ」 | インド |
| 第2話 「お父さんに神様を伝えたい」 | インド |
| 第3話 「医者 of 驚き」 | インド |
| 第4話 「ビデオゲームのヒマなし」 | インド |
| 第5話 「腫瘍が人々の心を変えた」 | インド |
| 第6話 「悪い習慣をやめること」 | インド |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

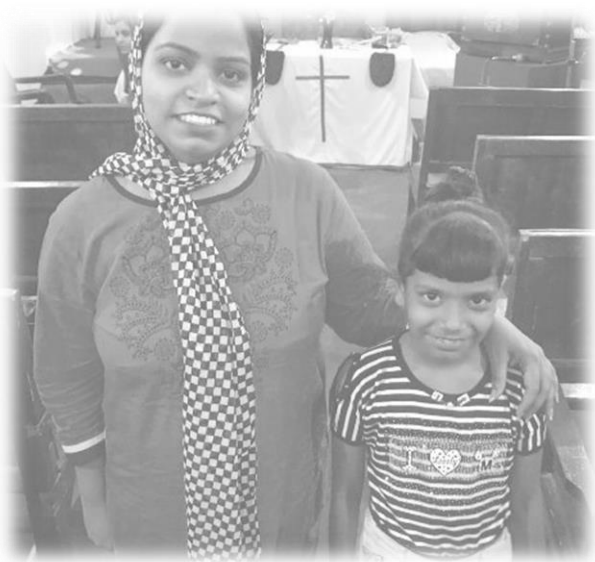
伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. インドのサラ

インド



ルチ 32歳

ルチにはとても悲しいことがありました。結婚して3年たつのに、まだ子どもがいないのです。彼女と夫のディーパクは医者たちを回ったり、木や石で作られた神々に祈りました。思いつく限りのことをしたけれど、何も起こりませんでした。

ある日、シャキナという75歳の女性がルチと同じ家に住んでいる家族を訪ねてきました。彼女はルチが子どもを欲しがっていると聞き、話しかけてきました。

「わたしは真の神であるイエスさまを信じているの。あなたのために祈りしましょう」

ルチはイエスさまについて何も知りませんでした。自分のために祈ってくれることをとても嬉しく思い、「お願いします。結婚して3年たつのに、まだ子どもがいないのです」と言いました。

「子どもは神からいただく嗣業（財産）よ」とシャキナは言い、共に床にひざまずいて祈るよう、ルチを招きました。ルチは木や石の神々にひざまずくのに慣れていましたから、シャキ

ナの横にひざまずきました。シャキナは祈りました。

「主よ、詩編127の3に『子らは主からいただく嗣業』とありますから、どうぞルチの胎を祝福してください」

次の週もシャキナはルチと祈るためにやってきました。その翌週も再びやってきました。シャキナは言いました。

「あなた自身も祈らなくちゃ」「アブラハムのようにイエスさまを信じるのよ」

「アブラ……誰ですって？」とルチはたずねました。アブラハムについて聞いたことがなかったのです。シャキナはアブラハムとサラが子どもを授かることをどんなに願っていたか話しました。

神さまは彼らの祈りに応えてサラが90歳のときに子どもを与えてくださったのです。

それを聞いてルチは思いました。

「もし神さまがあんなに歳をとったサラに子どもを与えることができるなら、わたしにも与えてくださることができる。だってわたしはまだ24だもの！」

ある日、シャキナは子どもがほしいと祈って、息子サムエルを与えられたハンナの話をしました。この話は、ルチの信仰を強めました。

「もし神さまがサラとハンナに子どもを与えることができるなら、わたしにも与えることができる」とルチは思いました。

彼女は自分で聖書を読み始めました。祈り続けました。1年たち、2年、3年、4年と過ぎていきました。ルチは聖書を読み、祈り続けました。

ある日、彼女はおなかにふつうとちがう感じがして、すぐ医者に行ったところ、妊娠したことが分かりました！「イエスさまがわたした

ちの祈りをきいてくださったのね！」とシャキナは言いました。

ルチは女の子を生み、キャシという名前をつけました。

その翌年、さらにまた1人、子どもが生まれました。

現在、ルチは2人の子どもを連れて、アムリトサル・セブンスデー・アドベンチスト教会に毎週通っています。彼女は言います。「イエスさまには、この世界の何よりも力がある」

今期の13回献金の一部は古くて狭くなったアムリトサルの教会を新しく建て直すために用いられます。これはルチと彼女の子どもたちが通っている教会です。皆さまの惜しみない献金を感謝致します。

〈お話のヒント〉

- パキスタンとの境に近い、インドの北西に位置するアムリトサル (Amritsar) を地図で探してみましょう。
- このお話に、なぜ「インドのサラ」という題がついているのか子どもたちにたずねましょう。アブラハムとサラのお話をふり返り、大切なことのために祈ることを決めてあきらめないよう子どもたちを励ましてください。
- 以下は、自分の祈りを聞かれないと感じている子どもたちへのルチからのアドバイスです。「神を信じ、イエスさまへの信仰を持ちましょう。彼が子どもの与え主です。聖書が言うように『子らは主からいただく嗣業』」
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。(bit.ly/fb-mg)
- インドの伝道支部と速報をダウンロードしましょう。(bit.ly/SUD-2020)

宣教メモ

- 言い伝えによると、インドに福音を伝え、南部にネストリアンクリスチャン教会を設立したのは使徒トマスとされています。歴史的証拠は4世紀以降、インドにクリスチャンが存在してきたことを指し示しています。セブンスデー・アドベンチストの教えがインドに伝わった時期や、福音伝道が開始された正確な時期は分かっていません。1890年にS.N.ハスケルとP.T.メーガンが世界伝道調査旅行の際、インドのコルカタからボンベイを横断しています。

2. お父さんに神様を伝えたい インド



アヌシャ・ナガパ 14歳

14歳のアヌシャはお父さんのことを話すと、涙が出ます。なぜなら、お父さんは彼女がクリスチャンになったことを全く喜んでいないからです。彼女の考えを改めさせようと堅く心に決めているのです。

この始まりは昨年、近所のアドベンチストの人がお母さんにイエスさまを伝えたことでした。

「偶像礼拝は間違っているの。あなたの心をイエスさまにお捧げするべきよ」とその人は言いました。

イエスさまを受け入れるよう何度も促され、お母さんは村にあるアドベンチストの教会に娘と一緒にいくようになりました。アヌシャは教会で歌うのが好きでした。

お父さんは、お母さんとアヌシャと教会へ行きたくありませんでした。それどころか、お母さんとアヌシャを教会へ行かせまいと堅く決意していました。彼は家にある20個の木や石で出来た偶像を指さして言いました。

「この神々が今まで我々を助けてきてくれたのだ。我々を養い、守ってくださった。どうして他の神を拝みに教会に行くのか？」

お母さんとアヌシャは黙っていました。お父さんを鎮める言葉がなかったのです。

それでも、お母さんとアヌシャが教会に行き続けるので、お父さんはお母さんに対して不機嫌な話しかたをしました。アヌシャまでいう事を聞かないからと言ってたたかれました。

さらに悪いことに、まわりの近所の人たちもアヌシャとお母さんに

「わたしたちと同じ神々を長く拝んできたのに、クリスチャンの神を拝むとはどうしたことかい？」

と言ってからかうのです。

クリスチャンではない地元の指導者までも、彼らをバカにしました。

事態がこれ以上悪くなることはないというくらい、どうしようもなく思えた時、お父さんがひどい事故にあいました。交通量の多い道を自転車で走っていた時、トラックにぶつかったのです。彼は危篤の状態で病院に入院していました。

「彼を救えるのは神だけです」医者はお母さんに言いました。

母と娘は、お父さんの命を助けてくださいとイエスさまに祈りました。

あのアドベンチストの友人も祈ってくれました。

医者の驚いたことにお父さんは回復して3週間で退院することができました。お父さんは天の神さまが自分の命を救ってくれたことをしぶしぶ認めました。しかし、まもなくお父さんの心は戻り、お母さんとアヌシャに教会へ行くのをやめるよう命じました。お母さんとアヌ

シャは安息日の朝、忍び足で家を出ていかねばなりませんでした。

今年、アヌシャは寮のあるアドベンチストの学校に入ることができました。しかられたり、たたかれたりせずにイエスさまを礼拝できるのでとても喜びました。また、彼女は学校で自分の聖書をもらいました。

休みで家に帰ると、友だちに聖書を読んであげます。

数人の友だちに祈ることも教えました。

でも彼女の何よりの願いは、お父さんと聖書を読んで祈れるようになることです。彼女は世界中の子どもたちにお父さんが真の神さまを知ることができるよう祈ってほしいと言っています。

今期の 13 回献金の一部はアヌシャの学校であるインドのカルナータカ州、アザン・ナガールのセブンスデー・アドベンチスト・イングリッシュハイスクールに送られます。そこで、もっと多くの子どもたちが真の神さまについて学べるよう、新しい教室を 2 つ作ることにしています。皆さまよりの惜しみない献金を感謝致します。

〈お話のヒント〉

- 地図でアザン・ナガー (Azm Nagar) を見つけましょう。
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。(bit.ly/fb-mg)
- インドの伝道支部と速報をダウンロードしましょう。(bit.ly/SUD-2020)
- インドは世界で最も大きな民主国家の一つです。
- インドの主要な宗教はヒンズー教であり、人口の 3 割から 4 割が肉食主義者です。
- インドは英語を使う国として、アメリカに次いで 2 番目に大きな国です。民衆の約一割がすらすらと英語を話し、その数は次の 10 年以内に 4 倍に増えることが予想されています。

豆知識

- 牛は聖なるものとみなされ、殺すことが禁じられていますが、インド人は牛からミルクをとっています。しかしインドの大部分のミルクの供給源はバッファローです。

3. 医者 of 驚き

インド



レニタ・キャロリン 22歳

医者レニタが生き延びることはないと思っていました。13歳の女の子はインドのベンガールの病院に運ばれた時、意識がなく、心臓はかろうじて動いている状態でした。

「彼女はいつ亡くなってもおかしくない。でもできる限りのことはします」

と医者は両親に話しました。

レニタの通う教会のセブンスデー・アドベンチスト信徒たち約100名が病院に詰めかけました。彼らはレニタがいる集中治療室の外で両親を慰めました。たくさんの教会員が病院の冷たい床にひざまずいて祈りました。教会に行つて祈った人たちもいました。

次の日、ベンガールにある15全てのアドベンチスト教会の牧師たち、信徒たちが病院に来てレニタのために祈りました。彼女は神に対する大きな信仰を持っていました。

ルツメアリは医者に言いました。

「あなたは務めを果たしてください。わたしの神は全てをちゃんとしてくださるでしょう」

その医者は神を信じておらず、ムツとしたようでした。

レニタの友たちは学校で彼女のために祈りました。学校長は彼女のために祈ろうと、生徒たちの祈りのグループをいくつも立ち上げました。

3日目になつても医者はレニタの命が助かるという確信はありませんでした。

しかし、ルツメアリは信じて疑いませんでした。

「あなたは務めを果たしてください。わたしの神は全てをちゃんとしてくださるでしょう」

と彼女は医者に言いました。この言葉に医者はムツとしました。

彼はルツメアリがどうして目に見えない神をこんなに信頼できるのだらうと思いました。

教会員たちは祈り続けました。4日たち、5日、10日と過ぎていきました。そして11日目にレニタは目を開けたのです。

10日間、断食しながら祈り続けてきたルツメアリは喜びに満たされました。

「あなたは務めを果たすことを続けてください。わたしの神は全てをちゃんとしてくださるでしょう」

この言葉に医者はムツとするのを乗り越して少々怒りをおぼえました。

レニタは次第に元気を取り戻しました。15日目に医師は彼女が食事をもっと食べられるように、のどに小さな手術をすることを決めました。

ルツメアリはこれに反対しました。

「彼女は教会で賛美をするの。もし手術をしたら、彼女は歌えなくなるでしょう」と彼女は医者に言いました。

医者は様子を見ることにしました。次の日、

彼は自分の目を疑いました。レニタの回復は目覚ましく、もう手術は必要なくなっていたのです。ルツメアリに向かって彼は言いました。

「あなたはいつもあなたの神のことを言っていました。あなたの神がレニタを救ったのです。神に感謝しなさい」

レニタの奇跡的な回復の知らせは病院中に伝わりました。他の患者たちやその家族たちは祈りによる素晴らしい結果を見て驚き、祈ってほしいという人々が多く現れました。

その夜、レニタは一般病棟に移され、1か月後には退院しました。その後、彼女はベンガールの 15 の教会全てをまわって証しをしました。

「わたしは生きた証人としてあなた方の前に立っています。わたしが命を取り戻せたのは、ただ神の恵みによるのです。皆さまお1人おひとりのお祈りを感謝致します。皆さまのお祈りのおかげです。祈りによって全ては可能になるのです」

今期の 13 回献金の一部はインドのベンガールにあるサバナガー・タミル・セブンスデー・アドベンチスト教会を新しく建てかえるために用いられます。これはレニタが通う教会です。現在の建物は老朽化しており、教会員が増えて人々が今の建物に入りきらなくなっています。皆さまの惜しみない献金を感謝致します。

〈お話のヒント〉

- ベンガール (Bengaluru) を地図で見つけましょう。
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。(bit.ly/fb-mg)
- インドの伝道支部と速報をダウンロードしましょう。(bit.ly/SUD-2020)

豆知識

- 救命急行列車、またはジーバンレカ急行は 1991 年以来、インドで運行されてきた診療列車です。これはインド鉄道を走っており、医療サービスを受けることができない田舎などの不便な地域の方々のためのアウトリーチプログラムです。
- 列車には 5 つのテーブルがある 2 つの手術室、そしてとがりには 6 つのベッドが設置されたリカバリールームがあります。その他、眼科検診、歯科診療、検査やレントゲン診療も受けられるようになっています。また、キッチンと 12 のベッドが備わったスタッフ区画もあります。ここでは整形外科や眼科の処置、やけど跡と口唇裂症のための形成外科処置がスタッフによって行われています。

4. ビデオゲームのヒマなし！ インド



リション・ペレイラ 9歳

リションの家族が都会からインドの山の小さな家に引っ越してきた時、お父さんとお母さんは息子のリションとおもちゃのことで話し合うことにしました。

「もう大きなおもちゃは必要ないよ。これから遊ぶ時間がないほどとっても忙しくなるんだ」

とお父さんは言いました。また、お母さんも

「村の子どもたちは貧しくて、あなたのようにすてきなおもちゃを持っていないわ。あなたの大きなおもちゃをその子たちにあげたらどうかしら」

と言いました。

リションはすなおな子どもで、自分の大きなおもちゃをあげてもかまわない、と思いました。彼はおもちゃを村の男の子たちや女の子たちにゆずってあげました。村の子どもたちは、おくりものをとても喜びました。そんなすてきな物をもらうのは初めてだったのです。喜んで子どもたちを見てリションも嬉しくなりました。人に親切にするのはいい気持ちでした。

日が経つにつれて、リションにはお父さんとお母さんが言っていたことが分かってきました。リションはとても忙しくなったのです。ホームスクールではお母さんから英語、ヒンディー語、その他の言語を教わり、算数と理科をお父さんから教わりました。勉強をしていないときは、家の畑でものを植えたり、草とりをしたり、とうもろこしやじゃがいも、その他の作物の収穫をしました。毎日、聖書の中から3つずつ聖句を覚え、数か月後には詩編 23 編、51 編、91 編、ヨハネ 1 章、2 章、ヘブル 11 章など、たくさん暗唱できるようになりました。リションは、小さなおもちゃでさえ、遊ぶ時間があまりなかったのもそのうちのいくつかを村の子どもたちにあげました。村の子どもたち、とりわけ小さな子たちはすぐリションと友だちになりました。子どもたちは、最初はリションがおもちゃをくれるからリションのことが好きでした。でも親しくなるにつれて、リションが親切で優しい子だとわかり、村の外の山にあるリションのお家に遊びに来るようになりました。

リションは子どもたちと遊ぶのが好きでした。リションの古いおもちゃで遊ぶこともありましたが、教会ごっこをして遊ぶことがほとんどでした。

村の子たちはクリスチャンではありません。子どもたちの親もそうではありません。子どもたちは神さまがこの世界をつくられたことや、イエスさまが人々の罪のために死なれたことを何も知らなかったのです。祈ることも知りませんでした。

でも教会ごっこを通じて子どもたちはリションからイエスさまのことを学びました。子どもたちは地面に座って、リションからアダムとエバ、ノアの箱舟、ダビデとゴリアテ、ライオ

ンの穴に入れられたダニエルの話を知りました。リシオンはイエスさまが十字架の上で死なれたこと、そしてそれはイエスさまを信じる者すべてに永遠の命を与えるためであったことを話しました。リシオンは共に祈るように彼らに呼びかけました。子どもたちに立ってもらい、彼は祈りました。

「イエスさま、私たちの1番の友だちでいてくださることを感謝します。ぼくたちが良い子になれますように。イエスさまのみ名によって、お祈りします。アーメン」

子どもたちはリシオンのお祈りをまねするようになりました。子どもたちは自分たちの親に聖書の話をしました。するとある親たちはリシオンの両親にイエスさまについてもっと知りたいと言ってきました。

リシオンにはテレビをみたり、ビデオゲームをする時間がありません。フェイスブックやインスタグラムもしていません。リシオンは家に残っている小さなおもちゃで遊ぶ時間があまりありません。リシオンはイエスさまのための宣教師として忙しいのです！

〈お話のヒント〉

- 地図でインドのカルナータカ州 (Karnataka) を見つけてみましょう。リシオンはその農村の山腹に住んでいます。
- どのようにしてリシオンのような宣教師になれるか子どもたちに促してみましょう。
- 室内のポット、または外に畑を作って畑仕事をするような子どもたちを励ましましょう。
- エレン・ホワイトは「チャイルドガイダンス」という著書の中で、畑仕事を通して神を発見することについて書いています。可能な方は原著、“Child Guidance” Chapter Seven`Practical Lessons from Nature`s Book にてご参照ください。オンラインで読むことも可能です。(bit.ly/EGW-Garden)
- リシオンの父親、ウィルバーをユーチューブでごらんになることができます。(bit.ly/Wilbur-Pereira)
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。(bit.ly/fb-mg)
- インドの伝道支部と速報をダウンロードしましょう。(bit.ly/SUD-2020)

豆知識

- ベンガールには 25 以上の湖があり、それらは町に水を供給すると共に、平和で静かな環境そして人々に楽しみを与えています。これらの湖はユリ、レンカク、ハタオリドリ類、カワセミ、シダ類など、様々な植物相や動物相の大きな生態系を支える自生地・生息地となっています。

5. 腫瘍が人々の心を変えた インド



アブイーシェク・チャウダリー 14歳

夏休みが始まり、学校の寮から家に戻ってきたアブイーシェクは嬉しさでいっぱいでした。

ところが、お休みに入ってから4日目に大変なことが起きたのです。

夕食前の午後4時ごろ、アブイーシェクと11歳の妹のマヒーマは家の前で野球をして遊んでいました。そのとき、球を打ったアブイーシェクが急に地面に倒れたのです。体を激しく震わせ、両手を握りしめ、口から泡を吹いているお兄さんを見て、マヒーマは悲鳴をあげました。知らせを受けて、家からとび出したお母さんの目に、気を失って震えながら地面に倒れている息子の姿がうつりました。お母さんの目からはみるみる涙があふれました。

お母さんは気持ちを落ち着けてからお父さんの携帯電話に連絡を入れました。

「アブイーシェクが歩くことも話すこともできないの。すぐ戻ってきてちょうだい」

宣教師のお父さんは、町から離れたところで祈祷会の集会をしている最中でしたが、これを

聞いてすぐ家に向かいました。その間、お母さんは意識のない息子を抱き起こし、ベッドまで運んでいきました。お父さんが2時間後に帰宅すると、アブイーシェクは意識を取り戻していましたが、話すことも動くこともできない状態でした。公立病院の診察時間はすでに終了しており、私立病院に行くお金はないため、病院に行くのは朝まで待たなければなりませんでした。

お父さんは泣いているお母さんと一緒に、息子の頭に手を置いて祈りました。

マヒーマも近くで寄り添う中、お父さんは次のように祈りました。

「主よ、あなたは全てをご存じであり、この不可解な病のこともおわかりです。あなたさまは息子をいやすことがおできになる方です」

翌朝、両親はアブイーシェクを病院へ連れて行きました。検査の結果、アブイーシェクの脳に小さな腫瘍が見つかり、これが倒れた原因であったことがわかりました。

医者は15日分の薬を出して言いました。

「この薬が効けば大丈夫でしょう。もし効かない場合は手術が必要です」

その夜、家族は「どうか薬が効くようにしてください」と神さまに祈りました。

教会員たちもアブイーシェクのために祈りました。お父さんは息子の学校の友達にも知らせたので、友だちも祈ってくれました。

それから15日間、みんなが祈っていました。

15日目に家族が再び病院を訪れると、医者はアブイーシェクの調子をたずねました。「前よりもずっといいです」とお父さんが答えると、医者は「腫瘍がどうなったか見るためにもう1つだけ検査してみましよう」と言いました。

そして検査したところ、なんと腫瘍が消えていたのです。

医者は大変驚き、これはどうしたことかと思議に思いました。医者はアブイーシェクにさらに 15 日分の薬を与えてお父さんに言いました。

「息子さんの状態がこれで問題なければ手術は必要ありません。その場合、今後1年間、薬を飲むだけでいいでしょう」

お父さんとお母さんは腫瘍が消えたことに感激しました。奇蹟が起こったのです！

家に戻ると家族全員で神さまを賛美し、お父さんが感謝の祈りをささげました。それから毎日、家族はアブイーシェクのために祈り続けました。

教会員たちも祈りました。夏休みが終わって学校に戻ったアブイーシェクのためにクラスメートたちも祈りました。

1年後、アブイーシェクが病院で検査を受けると、腫瘍はまったく見当たりませんでした。異常なしの結果に家族は大喜びしました。神さまが大いなる奇蹟を行ってくださったのです。

しかもそればかりではありませんでした。イエスを信じていなかった近所の人たちがこの話を聞いて、お父さんに祈ってほしいと頼んできたのです。クリスチャンであるアブイーシェクの家族を今まで馬鹿にしていた近所の人たちの態度は変わりました。彼らは親しい友人となり、イエスさまに心をおささげしたいと願うようになったのです。

アブイーシェクは病をいやしてくださった神様に感謝しています。アブイーシェクは神さまが祈りに応えてくださること、また彼の病気を通して、まわりの人たちが神さまを知るようになったことを嬉しく思っています。アブイーシェクはお父さんのように宣教師になることを目指しており、神様を知らない人たちにこの出来事を証ししたいと言っています。

今期の 13 回献金の一部はアブイーシェクの学校であるワラーナシー・セブンスデー・アドベンチストスクールに新しい寮を建てるた

めに用いられます。

〈お話のヒント〉

- ワラーナシー (Varanasi) を地図で見つけてみましょう。
- 写真でアブイーシェクのとなりに写っているのは、お父さんのラジェシ・チャウダリーです。
- YouTube でアブイーシェクを見つけてください。(bit.ly/Abhishek-Chaudhary)
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。(bit.ly/fb-mq)
- インドの伝道支部と速報をダウンロードしましょう。(bit.ly/SUD-2020)

6. 悪い習慣をやめること

インド



ハンビー・ポーレン 16歳

ハンビーは12歳の時にタバコを吸うようになりました。

初めてタバコを吸ったのは、インド北東部の村にある実家で夏休みを楽しんでいた時のことでした。

山岳地帯にあるその村は夏でも気温が低く、ハンビーはあたたかいセーターを着て、18歳の友人、ルーケルンと人気のない小屋でぶらぶらしながらおしゃべりしていました。

そのとき、ルーケルンがタバコに火をつけてハンビーに差し出したのです。

「タバコを吸ってるとあったかいよ」

ハンビーはためらうことなく、タバコを受け取りました。

1度も吸ったことがないので、どのように吸えばよいのかわかりませんでした。

煙はひどい味がして、ハンビーは咳き込みました。ハンビーはもう吸いたくなかったので返すと、ルーケルンはそれを黙って受け取りました。

1週間後、ハンビーは5人の友だちと一っしょにピクニックに出かけました。川の近くの原

っぱにつくと、友人たちは腰を下ろしてタバコを吸い始めました。ハンビーがまわりを見ると全員吸っていて、自分だけ取り残されたような気がしました。ハンビーはタバコの煙のいやな味を思い出しましたが、みんなの仲間になりたかったのでタバコをくれと頼みました。

でも今回、ハンビーは賢くやろうと決めました。せきこむとかっこ悪いので、煙を吸い込まずに、吸っているフリをしたのです。だれもそのことに気づかないようでした。ハンビーは友人たちの一員になることが出来て嬉しく思いました。

ハンビーは友人たちとの他の集まりでもタバコを吸う真似をしていましたが、まもなくその必要はなくなりました。ハンビーはいつの間にか難なくタバコを吸えるようになっていたからです。

夏休みが明けると、ハンビーはお姉さんといっしょに住むためにダイヤモンドという所に行きました。セブンスデー・アドベンチストの学校で学ぶためです。そこでハンビーはアドベンチストの学校に通わない新しい友人をつくりました。タバコを吸う友人たちといっしょになって、ハンビーも吸いました。仲間になりたかったからです。

でも学校ではタバコが体に悪いと学びました。タバコを吸うのをやめることを考えましたがもう無理でした。習慣になっていたハンビーは、タバコをやめようとする度にむかむかイライラするのです。

タバコを吸うためにはお金が必要でした。いつもいつも友人たちからタバコをただでもらうことはできません。そこで、お姉さんから学校のお弁当を買うためにもらったお金でタバコを買いました。ハンビーはますます多くの時

しょう。(bit.ly/SUD-2020)

〈13回献金を前に〉

- ・安息日学校生徒の各ご家庭に 12/26 の 13 回安息日プログラムのご案内と 13 回献金お願いのための手紙を送りましょう。伝道献金は世界中に神様の言葉を伝えるための贈り物であり、13 回献金の 1/4 は南アジア支部の 11 のプロジェクトのために直接用いられることを全員に伝えましょう。それらの伝道計画の内容は大人の『聖書研究ガイド』の裏表紙に記されています。
- ・語り手は物語を暗記する必要はありませんが、本文を見ないで話せるくらい内容をよく把握してください。子どもがハンビー、ルーケルン、舎監の役になりきって話を演じるのもいいでしょう。
- ・話の前か後に、地図を使って今回の 13 回献金が送られるインドの場所を確認しましょう。インドの各々の場所で献金がどのように使われるのか短く説明してください。

〈次回の 13 回献金プロジェクト〉

- ・来期の 13 回献金はユーロアジア支部で下記の目的のために用いられます。
- ・ロシアのトゥーラ地方にあるザオクスキ・アドベンチスト大学キャンパスに 2 階建て幼稚園、小学校、そして中学・高校を建てる。
- ・ウクライナのブチャにあるウクライナ・アドベンチスト・高等教育センターのキャンパスに 3 階建ての幼稚園、小学校、そして中学・高校を建てる。